市区町村名	山形県山形市	担当部署	消防本部
		電話番号	023-634-1199
		所属メール	Shobo-somu@city.yamagata-yamagata.lg.jp

１　取組事例名

全国初？消防士が行う行政改革　「Ｋ２プロジェクト」～組織改革への挑戦～

２　取組期間

令和４年４月１日～実施中

３　取組概要

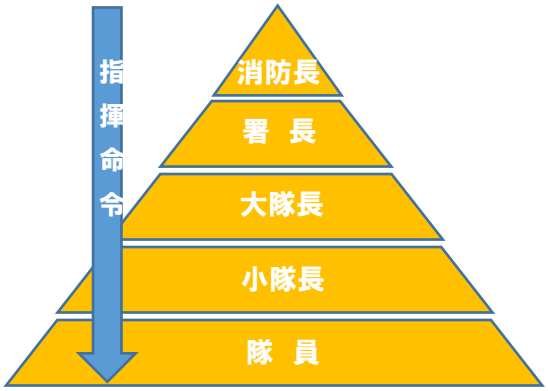
山形市消防本部は、更なる組織の活性化を目指し、新たな改善・改革プロジェクトにチャレンジしている。

プロジェクト名は、「カイゼン・カイカク」の頭文字となる「Ｋ」を２つ組み合わせて「Ｋ２プロジェクト」と名付けており、そこには、世界でもトップクラスの高さを誇っている山である「Ｋ２」のように、組織全体で高い意識を持ちながら、改善・改革を目指していくという想いも込められている。

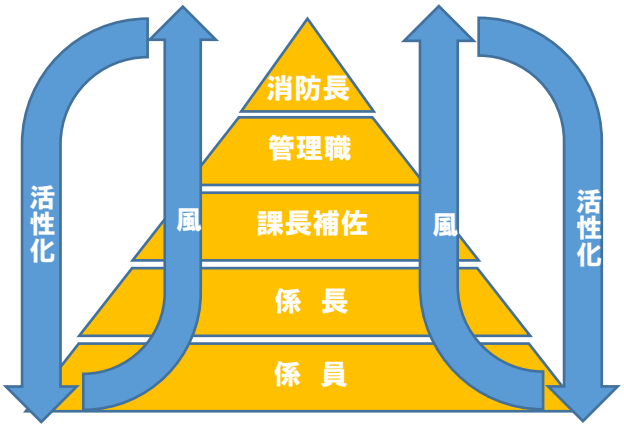
通常、災害現場においては、上司からの指揮命令によって、「安全・確実・迅速」の３原則を重視して活動を行っているが、業務を改善・改革するには、若手職員の斬新かつ柔軟な発想によるボトムアップも有効であると考えられる。

組織に必要なものを積極的に吸い上げ、改善・改革という風を下から巻き起こすことで、風通しの良い組織風土を作り、組織全体の活性化を実現させていくため、「Ｋ２プロジェクト」に取り組んでいる。

現場活動における体制図



通常業務で目指す体制図



４　背景・目的

山形市消防本部は、昭和２４年６月に設立し、今年で７５年目を迎えている。

管轄エリアは、山形市の他、隣接する２つの町から消防事務全般を受託しており、管轄人口は約２６万５千人となっている。

当消防本部が抱える課題として、消防署・出張所の老朽化に伴う建て替えや感染防止対策も含めた仮眠室や浴室の個室化、車両の定期的な更新などのハード整備に時間と予算が割かれ、施策などソフト面の充実になかなか取り組むことができずにいることが挙げられる。

また、現場以外の業務においても、上司からの命令系統が根強く残り、前例踏襲やトップダウンが目立つ傾向にあり、若手職員や中堅職員が積極的に声を出しにくい環境でもあることから、せっかくの「アイデア」や「気付き」を生かし切れていないのが現状である。

社会環境の変化等に伴い、組織自体も変化していくことが重要であり、組織全体を活性化させるためには、組織に「若さ」という新しい風を吹かせることで、全ての職員が同じ方向を向き、一丸となって組織改革に取り組むことが必要であった。

【目指す効果】

・組織全体で取り組んでいくことによる職員一人ひとりの意識改革
・自分が提案した改善計画で、組織が変化し改善していく「喜び」や「達成感」によるモチベーションの向上
・活発な意見交換ができる組織の形成
・多角的視点からの改善による業務の効率化

５　取組の具体的内容

「Ｋ２プロジェクト」は、現在も進行形の取組であり、年度ごとに課題や改善策を検討し、ブラッシュアップを図りながら進めている。なお、これまでのプロジェクト構成は以下の通りである。

【Ｋ２プロジェクト２０２２構成】

⑴プロジェクトチーム

資格を保有し業務を行うという特性を考慮して、「警防チーム」「救急チーム」「予防チーム」の３チームに分けて、チーム毎に問題点を洗い出し、改善計画を作成、提案する。対象者は、消防司令補以下の職員により構成した。

	対　象　者	役　割
警防チーム 救急チーム 予防チーム	消防司令補以下の者 各チーム７名程度	・問題点の洗い出し、分析、具体的な業務改善計画書を作成 ・改善会議にて、プレゼンテーション ・改善状況を把握し、成果発表会にて、結果を発表 ・最終結果を職員へ周知

⑵サポートメンバー

総合的にチームをサポートする「改善サポーター」、成果に基づきアドバイスを行う「改善アドバイザー」、プロジェクトを運営していく「事務局」の３つの体制に分けて、それぞれの立場で役割を設け、全提案の実現に向けてサポートする。

	対　象　者	役　割
改善 サポーター	消防副署長 各課課長補佐	・業務改善計画書作成時のチームのサポート及び実行に向けたアドバイス ・プレゼンテーションを受けて、提案計画の振り分け（実行、次年度予算化、ブラッシュアップの判断）
改善 アドバイザー	消防署長、各課長	・成果の講評 ・次年度に向けたアドバイス
事務局	総務課	・プロジェクトの運営等

⑶事業の経過

①令和４年４月１２日「Ｋ２プロジェクト」の実施及びチームメンバーの募集。

（チームメンバーは消防司令補以下が対象）

組織の更なるステップアップを目指し、若手職員の斬新かつ柔軟な発想で業務の改善計画を立て、消防本部全体で実現させるプロジェクトを立ち上げた。

②令和４年５月１６日　Ｋ２プロジェクトキックオフイベント開催。

警防チーム１０名、救急チーム７名、予防チーム６名にて発足。

（イベントに市長、副市長出席）

③令和４年９月１日　第１回改善会議（副市長出席）

各チームから以下の６提案について発表と実行に向けたディスカッションを行った。

ア　消防隊の能力向上及び火災対応力の向上（警防部会の設置・訓練施設提案）

イ　山形市消防本部公式 SNS アカウントの開設

ウ　救急救命士継続教育病院実習の見直し（実施方式変更提案）

エ　救急隊の教育について（救急隊員の教育・指導方法の改善提案）

オ　動画を活用した人材育成（YouTube を活用した若手消防職員に対する火災予防業務の教育）

カ　火災予防優良事業者に対する消防安全サポーター制度の制定

④令和４年１０月１４日　第２回改善会議

第１回会議において、計画内容のブラッシュアップとなった２案件の改善会議を行った。

⑤令和５年３月１５日　成果発表会（市長、副市長出席）

各チームが最終改善計画の実施状況について発表し、改善アドバイザーより所感をいただいた。

【Ｋ２プロジェクト２０２３構成】

⑴初年度からの変更点

①「提案テーマ」の新設

年度ごとに「提案テーマ」を設定し、そのテーマに沿った業務改善計画を提案する。

②チームメンバーの拡大

階級に係る制限を撤廃し、管理職以外の全職員を募集対象とする。また、提案テーマのカテゴリーを増やすことで、係単位、隊単位、有志のグループ単位での参加の可能性を広げる。

③改善サポーターをチームメンバーが人選

各課の課長補佐を改善サポーターとしていたが、全職員（管理職、予防課及び救急救命課の単独課長補佐、事務局を除く）の中からチームメンバーが人選し、事務局が指名することとする。また、改善サポーターは複数名でも可とする。

④実行担当課の課長の役割の整理

各課の課長は、「実行担当課の課長」として改善会議において、提案された計画を振分け（「実行」又は「再検討」）する役割を担う。

⑤課題解決に長期間を要する計画の再提案
「再検討」と振分けされた計画は、同年度中に開催する第２回改善会議にて再提案することを基本とするが、課題解決に長期的な期間を要する場合は、翌年度に再提案することも可とする。
⑥業務改善計画の実施に向けた連携強化
　チームメンバーは改善サポーターのサポートを受けながら業務改善計画書を作成する。また、「実行」と振分けされた業務改善計画は、実行担当課、チームメンバー、改善サポーターの３者が協力しながら実行する。

（例）・チームメンバー、改善サポーター⇒企画立案、資料作成等
　　・実行担当課⇒起案、予算要求等
⑦令和４年度業務改善計画の検証
　令和４年度の業務改善計画について、実施状況及び成果等について検証を行い、事業全体のフォローアップに努める。
［提案カテゴリー］

カテゴリー	対 象 者	役 割
警　防 救　急 予　防 通　信 消防全般	・管理職以外の全職員 （係単位、隊単位、有志のグループ単位での参加も可）	・自分たちの業務改善計画に最適な改善サポーターを人選する ・改善サポーターと協力しながら問題点の洗い出しや分析を行い、業務改善計画を作成する ・改善会議においてプレゼンテーションを行う ・「実行」と振分けされた計画を実行担当課と協力し実行に移す 「再検討」と振分けされた計画は再提案を行う ・成果発表会にて改善結果を発表する

改善サポーター

	対 象 者	役 割
改善サポーター	全職員（管理職、予防課及び救急救命課の単独課長補佐、事務局を除く）からチームメンバーの人選を踏まえ事務局が指名した職員（複数名でも可）	・チームメンバーの業務改善計画の作成をサポートする

実行担当課

	対 象 者	役 割
実行担当課	業務改善計画の業務を所管する課（署）の課長（署長）	・業務改善計画の作成時、チームメンバー、改善サポーターに対し情報提供等の協力を行う ・提案のあった業務改善計画を「実行」又は「再検討」に振分けする ・「実行」と振分けした計画をチームメンバーと協力し実行に移す

事務局

	対 象 者	役 割
事務局	総務課	・改善サポーターの指名、プロジェクトの運営等を行う

⑵事業の経過

①令和５年５月８日　Ｋ２プロジェクト２０２３の実施及びチームメンバーの募集。

Ｋ２プロジェクト２０２２の課題を整理し、プロジェクト自体を改善した上で、Ｋ２プロジェクト２０２３をスタートした。

また、令和４年度の業務改善計画における実施状況の進捗把握及び成果等についても検証を行った。

②令和５年９月８日　第１回改善会議（副市長出席）

各チームから以下の４提案について発表と実行に向けたディスカッションを行った。

ア　「きもちよくあいさつしませんか」（常日頃の職員の挨拶に関する意識改革）

イ　「Ｋ２のＫ２」（Ｋ２プロジェクト自体の改善提案）

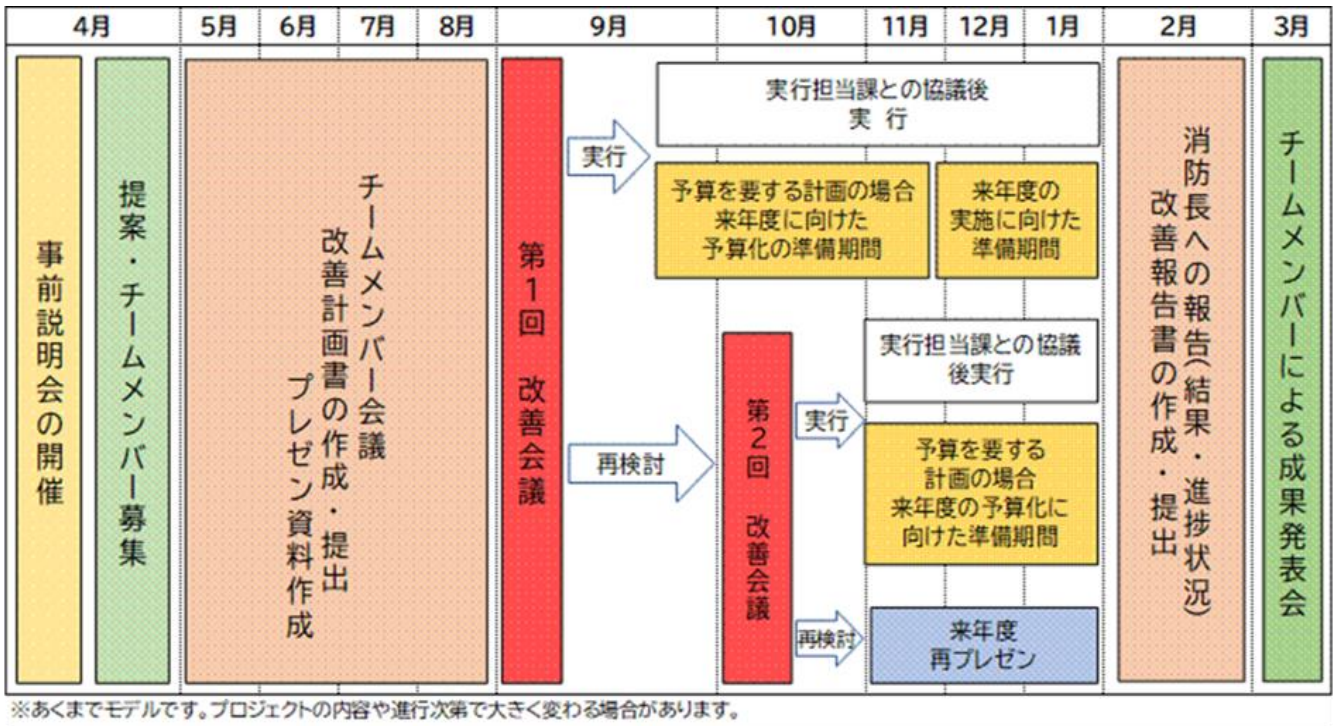
ウ　災害発生時の報道機関対応の効率化

エ　「地水利改革」（消防職員のための地理、水利等調査専用ツール作成）

③令和６年３月１２日　成果発表会（副市長出席）

各チームが最終改善計画の実施状況について発表し、改善アドバイザーより所感をいただいた。

【Ｋ２プロジェクト実施スケジュール　２０２４】



６　特徴（独自性・新規性・工夫した点）

従来の固定観念にとらわれず、働きやすい組織にするため、若手職員の視点と自由な発想で業務の課題等を把握し、立案した改善計画を公の場で管理職員に提案することができるなど、組織全体の意識改革と活性化を図ることができる。

また、消防職員委員会とは違い、広く意見を募集するとともに全ての会議を公開しており、提案者自らが資料の作成やプレゼンテーションを行うことから、消防職員の能力向上も図ることができる。

7　取組の効果・費用

取組事例１　救急救命士継続教育病院実習の実施方式変更（令和４年度事例）

⑴背景

当消防本部における救急救命士継続教育のための病院実習は、救急救命士３名が救急車で出向する方式をとっており、救急要請時は出動することとしていた。

⑵課題

①実習時間の確保困難

救急出動件数の増加等の影響で、病院実習中の院内滞在時間が８時間の実習時間のうち平均３時間程度となっており、十分な実習時間を確保できていない。

②静脈路確保（点滴）の成功率の低迷

救急患者の対応をする機会が少ない状況のため、実習の経験を救急現場に結びつけることができておらず、全救急救命士の静脈路確保（点滴）の成功率は概ね 55%前後という低い水準で推移しており、近年は低下傾向となっていた。

※上記①、②の理由により、年 1,275,000 円の費用を計上する重要事業であるにも関わらず、病院実習の本来の目的である「救急救命士の資質の向上、救急救命処置の技能維持」の達成が困難な状況となっており、極めて費用対効果の低い状況にあった。

⑶改善計画

①出向方式を、救急救命士１名が出向し救急出動対応しない状況で実習を行う形に変更
②静脈路確保等の救急救命処置を十分に履修できる実習カリキュラムの策定

⑷効果

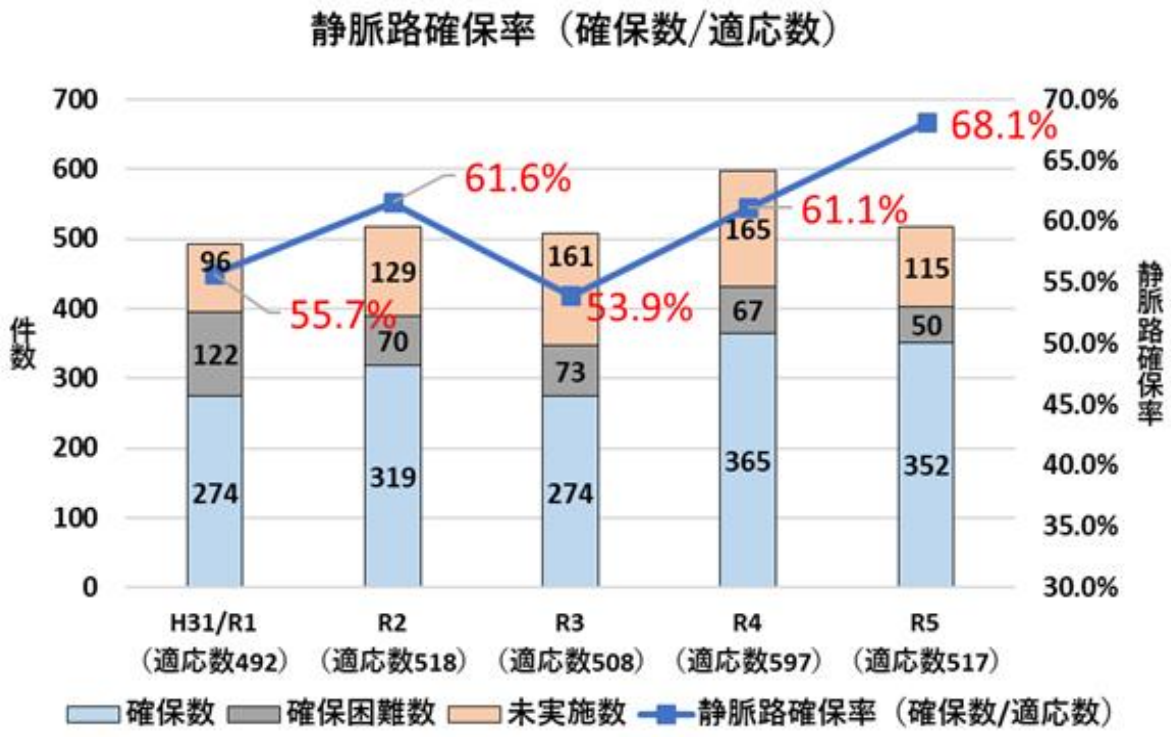
①救急患者に対する処置回数の増加

実習時間が確保され、さらに実習内容の充実を図ったことで、静脈路確保の実施回数については実習医療機関全てで大幅に増加した。

実習医療機関	静脈路確保の実施数（変更前）	静脈路確保の実施数（変更後）
Ａ病院	0.06 回／１人	23.27 回／１人
Ｂ病院	過去４年で０回	7.8 回／１人
Ｃ病院	過去４年で０回	5.6 回／１人

②静脈路確保の実施成功率の上昇

技術研鑽の場が大幅に増加したことで、救急救命処置の技能の維持向上が図られ、令和５年の静脈路確保の成功率は大幅に上昇した。



※上記①、②の結果より、年 1,275,000 円の費用を変更することなく、病院実習の本来の目的である「救急救命士の資質の向上、救急救命処置の技能維持」を達成したと言える。

取組事例２　消防職員のための地理、水利等調査専用ツール作成（令和５年度事例）

⑴背景

消防職員が地理、水利等に関する情報を調査し共有することは、現場活動上、極めて重要な必須業務であり、その知識習得の多くは職員個人の自己研鑽に委ねられている。

⑵課題

①情報取得が困難

水利の把握（調査）には地図が必要不可欠であるが、一般の地図には水利情報が記載されておらず、職員が情報を「いつでも」「どこでも」「かんたんに」に得ることが困難。

②職員の把握している情報の偏り

職歴や年齢、居住地（生活圏）による認識の相違があることや、街並みは日々変化しているにもかかわらず、販売されている住宅地図や web 上の地図の情報は最新ではないこと等により、職員同士の情報共有、意思疎通がスムーズに行われない。

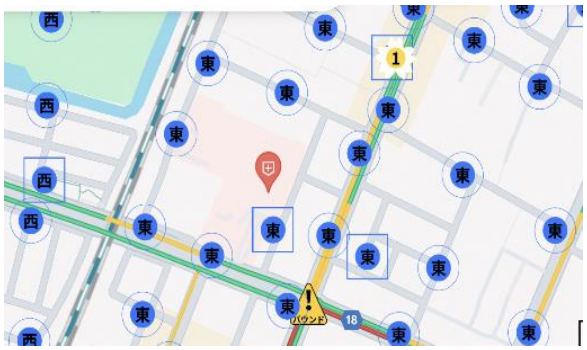
⑶改善計画

Google My Map（グーグルマイマップ）（以下「マップ」という。）を使用して全職員で山形市消防管内の情報を共有する。（愛称：Fire FISH ファイヤーフィッシュ）

⑷実施内容

消防本部の Google アカウントを無料で作成してマップの編集を行い、以下の消防独自の情報をマップに追加し保管することで、職員が同一の情報を「いつでも」「どこでも」「かんたんに」に得ることを可能とした。

表示項目	件数	データの概要
消防水利情報	消火栓：3,741 件 防火水槽：1,442 件	管内の全消防水利
消防団車庫	131 箇所	管内を把握するための目標物
ランデブーポイント	14 箇所	山形県ドクターヘリの着陸地点
緊急車両 走行注意箇所	救急車走行注意箇所：30 箇所 事故多発箇所：11 箇所	救急車走行注意箇所：道路の段差等で救急車がバウンドし、搬送中の傷病者に影響がある箇所 事故多発箇所：県警ＨＰから取得した事故多発箇所
山岳救助情報	21 箇所	管内の主要な山岳の登山口



水利等調査専用ツール（Fire FISH）画面
（職員個人のスマートフォンで閲覧可能）

地図上に追加表示したアイコン

Google Map をナビのように使用可能

⑸今後の展望

①情報の拡充

職員からの意見を参考に、マップに追加する情報を拡充し利便性の向上を図る。

②緊急消防援助隊等の受援に対応できる情報を整備

大規模災害の発生時、緊急消防援助隊や県内の広域応援隊を受け入れる際に、二次元コードのみで災害地点の重要情報などを応援隊に共有することできるようにする。

③全職員への編集機能の使用解禁

現状、データの管理の観点からデータ編集者を制限しているが、所属する職員全員がデータ編集可能とし、管内の最新情報を迅速に全職員で共有できるようにする。

８　取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

発案から発表までの過程に不明な点や不安を抱えている職員や「Ｋ２プロジェクト」に提案したい意見を持っているが、以下の理由等で発表しないことを選択している職員がいること。

・自分の意見に自信がない、恥ずかしいと感じている。
・プロジェクトに参加するまでの余裕がまだないと感じている。
・意見の発表方法について不安がある。
・自身の提案が反映してもらえるのか不安である。
・提案しても他の職員の理解が得られるのか不安である。

※「Ｋ２プロジェクト」への理解を深めるため、令和６年度より、参加希望職員及び管理職員向けに事前説明会を開催。

９　今後の予定・構想

年間を通しての計画的な進行のため、突発的な案件への対応ができないことから、状況に合わせ適切なタイミングで改善・改革が行えるよう、スピード感のある課題解決体制の構築を検討する必要がある。

１０　他団体へのアドバイス

当消防本部においても、様々な取り組みを行いながら、まずは、前例踏襲やトップダウンといった考え方から脱却し、下から巻き上がる風を上手く循環させるシステムを構築することで、職員の更なる意識改革を図り、ひいては、「個の改革」が「組織全体の改革」に波及し、さらに「組織全体の改革」が「個の改革」にフィードバックされる、そんな好循環を持続できればと考えている。

１１　取組について記載したホームページ

https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kurashi/bousai/shobo/1010413/index.html